

天 界 第二十八號

(第三卷)

大正十二年四月號

教授 E. E. バーナード 逝く

ヤーキース天文臺に於ける、實地天文學の教授エドワード・エマスン、バーナード氏(Edward Emerson Barnard)本年二月六日死すとの報知、同天文臺のアツソシエート(Associate)なる我山本一清氏より本月七日に到着した。葬儀は翌七日午後二時半ウイリアムスベールで執行せられたり。是より先、山本氏よりの『海外日誌』原稿中に於て本年一月一日の項に

「元旦早々、バーナード氏病氣の事を聞いた。之れは誠に當天文臺としては珍らしいことで、又、悲しいことだ。早速見舞に行く。聞けばバーナード氏は糖尿病が持病であるのに、昨年末以來、觀測に餘り勵み過ぎた結果だ云ふ。御本人はそれでも、早く床を離れたがつて、モヂ／＼してゐられるらしいが、醫師の言によれば、當分、少なくとも數週間は床を離れられない。之れが爲め、四十時望遠鏡による觀測のプログラムは俄かに變更された。……」

と報ぜられ、又同月二十七日には

「午後四時、獨りでバーナード氏の病床を見舞ふ。氏は豫想以上に衰へて、弱つてゐられる。」

とあつた。又「二十九日、京都の美しい繪端書を五十枚ほき、バーナード氏の病床の慰安にもと思つて、ミス、カルバートに渡した」この記事も見えた。然るに今や此の訃報に接したるを見れば遂に起つ能はざりしなり。嗚呼惜しむべき哉。平素同教授を敬慕措く能はざりし山本氏は臨終に侍せられ、感慨無量、愛惜の情我等日本人中何人にも優つて深刻であらう。

我等は茲に謹んで偉大なる天文學的發見者にして且つ自成の人なる彼の永眠を悼む。

因に彼は天體寫眞術に優秀なる結果を得たる第一人者にして始めて寫眞に由り彗星を發見し、又銀河の星雲を寫眞に撮影した。彼は二十箇以上の彗星の發見者にして、且つ木星の第五衛星の發見を以つて聲名を世界に響かせた事は讀者の熟知せる事である。是等及是等の功績に對して賞金やメダルや稱號の贈られた事さもは大略別項の彼の傳中に紹介せらるゝであらう。